

高崎市文化事業広報誌

劇場都市

vol **04**

2018 SPRING

Takasaki Cultural Event
Information Magazine
GEKIJOTOSHI

公益財団法人
高崎財団
The Takasaki Foundation

都市は劇場であり、劇場は都市である



都市は劇場であり、劇場は都市である

都市は、人生の喜怒哀楽が繰り広げられる舞台であり、都市そのものが劇場である
そこで生まれる芸術文化は感動や創造性につながり、都市そのものを作っていく——
「劇場都市」は、そこで生み出される文化芸術活動とそのドラマを紹介していきます

Contents

2 Interview

若き天才ピアニスト Sorita Kyohei

反田 恭平 初の高崎公演

6 movement

劇場都市 高崎の物語 3

「終始一誠意」近代高崎の礎を築いた
初代高崎市長 矢島八郎と高崎市是

8 ベルリンで喝采を受けた“ロケのまち高崎”発

映画『ラーメン・テー』
世界25カ国で公開!!

12 高崎財団 公演情報

2018春・夏コンサート情報

裏表紙 MEET THE GSO

群馬交響楽団 楽団員インタビュー #04

ヴィオラ首席奏者 渡邊 信一郎

◆表紙:「Untitled」 by JON JON GREEN・松岡洋太
1978年高崎市生まれ。多摩美術大学美術学部卒業。2004年よりライブペインティングを軸に制作活動を開始。

高崎芸術劇場

Takasaki City Theatre

2019年オープン



高崎に日本を代表する新しい劇場が誕生

強靱な打鍵で大ホールを震撼させる、圧倒的な存在感

若き天才ピアニスト

反田 恭平

初の高崎公演

ロシア留学から一年、サントリーホール2,000席を完売した鮮烈なデビュー・リサイタルから二年。その美しくエモーショナルな音色で多くのファンを魅了する、今、最も注目のピアニスト・反田恭平の単独インタビューが実現。モスクワ留学時代、そして今、未来を語る！

チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第一番

ロシアの巨匠ミハイル・プレトニョフ率いる
ロシア・ナショナル管弦楽団と共演！
6月13日(水)19:00開演
群馬音楽センター



ロシアへの思い

「この度の群馬音楽センターでの公演について、意気込みをお聞かせください。」

「常に任された仕事を全うする」。僕は、どんな公演もそういう気持ちで向かっています。特に、今回はロシアのオーケストラと尊敬するマエストロ、プレトニョフさんとの初共演です。マエストロはピアノニスト、指揮者でもあり、このオーケストラもご自身で創られたというすばらしい音楽家。ロシアは三年半留学していた国なので特別な感情があります。久々にロシア語を話せることにもワクワクしていますし、日本でロシア語を話すソリストも珍しいでしょうから、すぐに仲良くなれると思うので楽しみです。

「反田さんにとって、改めてロシアという国はどんな存在ですか？」

初めて長く住んだ外国ですので、第二の故郷みたいな所です。留学した当初は、ロシア人って何を考えているかわからないような壁を感じました。でも、仲良くなると逆にアプローチがすごい。パーティーが好きで「家に来いよ」と、食べきれないくらいの料理が用意されています。

ロシアの楽曲もロシア人の人柄と

一緒に、人の気持ちにすんなり入っていきけるメロディ性を持っていると思います。つかみづらいたところもあるけれど、壁を抜けた後はすんなり入っていきけるような…。

僕、猫が大好きなのですが、ロシア人って猫のようですよ。まさにロシアンブルー。プライドが高いですけど、飼い主だけにはデレデレみたいな。ロシアのノラ猫、めちゃくちゃかわいいです。もっさもっさで！ 寒いからなのかな(笑)。

もうひとつの印象としては、暗い土地ということ。2013年9月に行ったときには街灯も少なく、物資も少なかつた。フライパンが三ヶ月も手に入らなくて…。それに日照時間も短い土地ですから、ちょっと憂鬱になる日本人もたくさんいました。僕は、根がポジティブなので大丈夫でしたけど(笑)。

でも、このポジティブな性格が裏目に出て、最初の二日間、何も食べられませんでした。何も考えずに留学してしまっただけで、英語も通じないという現実にも直面して。売店で、やっと覚えたロシア語の2単語「水をください」という意味の「Пожалуйста, воды!»を言う自信がなくて(笑)。ポジティブですけど、シャイなので。

「相反する両面を持っているのですね。」

僕はA B型のせいかな、いくつか顔を持っていると思います。こうやってインタビューを受けているとき、家でリラックスしているとき、演奏しているとき…。今も変わらずポジティブだけどシャイな部分は残っています。とにかくロシアは大きな国で、日本では経験しえないようなこともありました。殺されたかのようなことも何度かあったし、いろんな体験を通して自分自身に引き出しが増えました。自分を成長させてくれた国です。

人生は一本の道

「演奏しているときは、どんな反田さんなのですか？」

小学校で、黒板に日直の名前が書いてあるじゃないですか。自分の名前を見ても、自分と一致しない感覚が昔からありました。「反田っていう奴が世の中にいるのだな」という感覚。

ピアニスト反田の名前をポスターなんかで見ても、「反田恭平という体を使って何をしなくてはいけないのか」と自分を客観視しているところがあります。

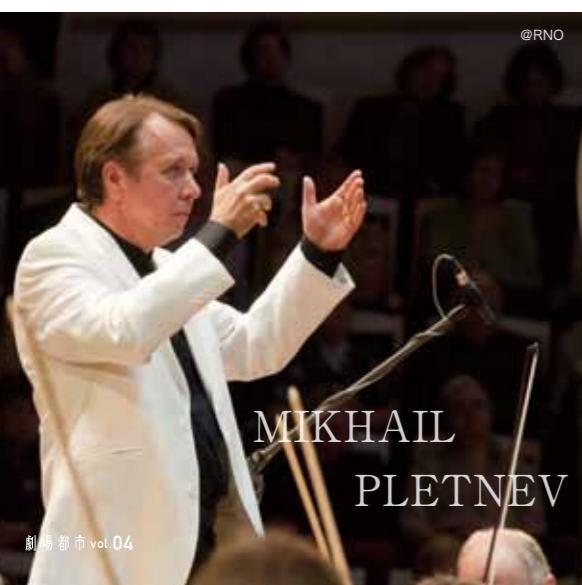
それは人生観にも通じていて、「人生には分れ道やターニングポイントがある」とよく言われますが、僕は「人生は一本の道」を歩いているようなもので、最初から決まっていると思っています。ロシアに行ったのもなぜかとか、僕

はそんなに考えていなくて、行かなければならなかったから行ったと思いますし、去らなければならなかった時に去ったと思っています。

「今回のチャイコフスキーのピアノ協奏曲第一番について、どのような思いがありますか？」

チャイコフスキーのコンチェルト協奏曲(一番の冒頭部分は特に有名ですが、そう簡単に弾ける曲ではないのです。ロシア人から学んだこの曲は、ものすごく難しく、それは民族性が課題となってきました。例えばちよつとしたリズム、「タンタン、タランタン」の「タラン」という二つの四分音符でも、同じ四分音符のように弾いてはいけないのです。二音の間に、ディミヌエンド(だんだん控えめに)があって、それを「どの指で、どういう指圧で、どの音圧

◀ロシアの巨匠、ミハイル・プレトニョフ



MIKHAIL PLETNEV

で弾いて、どの音色で……」といういろいろ考える。ロシアで「そうじゃない、その音じゃない」と何度も駄目出しされた、すごく厳しかった作品のひとつです。

長い曲ですが、ストーリー性があって聞いているとあっという間に終わってしまう。それを表現するのがひとつの課題です。

——新しいレパートリーを自分のものにしていく過程とは、どのようなものですか？

ロシアでは、ピアノの練習が日本のようになかなかできませんでした。語弊があるかもしれませんが、日本に比べて設備が劣っていた点があつて。一番印象的だったのが、押しても下がらない鍵盤だったり、鍵盤の木が剥がれていて弾いていると血が出たり。ペダルがない、そもそも鍵盤がないということもありました。



右手の平の親指の付け根の丘は筋肉が発達しまるで「手羽先」のようだ。

で、想像力を働かせながら「ここはピアノソロだけれども、どういう意図があつてこういう形になったのか。もしかしたらフルートの旋律やオーボエかも。左手はチェロか、コントラバスか……」と客観視するようになりました。

ロシア留学で、そういうアナリーゼ(分析)がとても大事だと気づきました。そういう過程を経て、今の表現につながっていると思います。

——反田さんは、作曲家によって使う手の筋肉の違いについて分析されているそうですね。

オクターブをやっているとつく筋肉とか、右手と左手でも違います。例えば右手の甲。人差し指の下にくるのはベートルヴェンやハイドゥンという古典派の筋肉です。薬指と小指の下は筋肉が付きづらいたのですが、僕の手は、若干ここの筋肉も盛り上がっています。それから、手の平の親指の付け根。ここが固く盛り上がって、手羽先みたい。瓦割とかできるのじゃないかな笑。

——改めて反田さんにとって、音楽とはなんでしょう。

日本語では音楽って、音を楽しむと書きますけど、この意味で言うならば、「常に寄り添っているもの」だと思います。例えば、カメラのシャッター音など、どんな音も音楽のひとつだと思うのです。街で流れている音や人の声も、みな音楽と感しています。

——ピョンチャンオリンピックが華々しく終わりましたが、ご覧になりましたか。

ユースもやるのが音楽家だと思っているので、すべて均等のレベルになるように生涯かけて勉強していきたいです。



——指を下ろす、移動する」という縦と横の動きだけですから、それを理解して取り組む。ドの音を弾いているときに「どの筋肉を使っているか」。レの音を弾いているとき「どんな筋力の割合で弾くか」と考えるのが好きなのです。

「ハノンの教則本」も、指の筋力のことを考えながら弾かないと意味がないわけです。

——やはり筋力をつけることで「音」は変わりますか。

ロシア人のピアニストにデニス・マトゥエフという180センチ越えの大きな体格をしている方がいますが、やはり物理的に敵わないものがあります。彼の演奏を劇場の5階から聴いたことがあります。まるで目の前で弾いているかのような音量に圧倒されました。

一説によると、ラフマニノフはピアノを壊したという伝説もあるそうで、少しでもロシア人の音量に近づくために筋トレを始めました。それこそ今回のチャイコフスキーは、オーケストラがフル編成なので、ピアノが小さいなと思つてほしくないですから。ソリスという立場ではそれも大事だと思つています。

——生涯、音を探し求める

——反田さんの目指す「理想の音」とは、どんなものでしょうか。

例えば、誰でも好きなメロディがイメージとして頭の中にあると思います。多分、その音が自分の理想像だと思います。僕はこう話しをしていても、常に頭の中で音が流れている。このイメージした音色というのが、自分が追い求めている音色だと思つています。だから、現段階では出せない音ですね。

昨年、ラフマニノフのコンチェルトのツアーの最終日に、はじめの音を弾いた瞬間「これは僕が頭の中で描いていた音色にもすごく近い音だ」と思いました。具体的な言葉で表現できないのですが、一年に一回あるかないかの音です。理想をイメージしながら、人は一日ごとに成長していく、それと同時に理想も高くなっていく。一生涯これよしという音があるわけではなく、自分自身も求められない音を探し求める。まさに職人です。

——現在、ポーランド・ワルシャワに拠点を移されているそうですね。

シヨパンを究めようと思つていて、レッスン曲は全てシヨパンだけです。どんなに自分が違うプログラムをやつても、オリンピックで国歌を弾きたいですね。

——それは、楽しみですか。最後に、高崎のファンの皆様にもメッセージをお願いします。

今回は、マエストロ・プレトニョフとロシア・ナショナル管弦楽団が全力でサポートしてくれると思います。マエストロから「好きなように弾いて。こちらが全力で合わせるから」という言葉を頂いているので、思いきり好きなように高崎で暴れたいと思います。

高崎の皆さん、壮大なロシア音楽を堪能いただけると幸いです。当日、会場でお会いできることを楽しみにしていますよ！

◆ミハイル・プレトニョフ◆

1957年生まれ。78年、弱冠21歳でチャイコフスキー国際コンクールのゴールド・メダル及び第1位を受賞。驚くべき技巧と、深い知性に裏づけられた演奏、美しい音色で、カリスマ的人気を誇る現代最高のピアニストの一人。指揮者や作曲家としても魔法のような才能で、世界中の聴衆を魅了する多才な芸術家。



©RNO

◆ロシア・ナショナル管弦楽団◆

ミハイル・プレトニョフの下、ロシア初の民間オーケストラとして1990年創立。ロシアのオーケストラとして初めてパチカンとイスラエルで公演を行い、世界一流の演奏家をソリストに迎えている。グラモフォンとペンタトーン・クラシックスからCDを多数発売、一流レーベルを含む複数のレコード会社と関係しているロシア唯一のオーケストラである。



©RNO



◆反田恭平 Sorita Kyohei◆

1994年生まれ。2012年高校在学中に第81回日本音楽コンクール第1位入賞。14年チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院に首席入学。15年「チッタ・ディ・カントウ国際ピアノ協奏曲コンクール」(イタリア)古典部門優勝。「ロシア国際音楽祭」にてマリインスキー劇場デビュー。16年のデビュー・リサイタルは、サントリーホール2,000席が完売。17年にはオーケストラとのツアーを12公演と初のリサイタル・ツアーを行い、全公演完売。「題名のない音楽会」「情熱大陸」等メディアにも多数出演。2017年出光音楽賞受賞。CDショップ大賞「クラシック賞」受賞。公式HP <http://soritakyohei.com/>

ロシア音楽の真髄を堪能する一夜！
ミハイル・プレトニョフ指揮
ロシア・ナショナル管弦楽団
反田恭平ピアノ

【日時】2018年6月13日(水) 19:00開演

【会場】群馬音楽センター

【曲目】チャイコフスキー／ピアノ協奏曲
第1番 変口長調 op.23
ショスタコーヴィチ
交響曲第10番 小短調 op.93

【料金】S席 12,000円(友の会 11,000円)
A席 10,000円(友の会 9,000円)
B席 8,000円
(友の会 7,500円、U-25 3,000円)

【お問合せ】群馬音楽センター
027-322-4527

「終始一誠意」近代高崎の礎を築いた 初代高崎市長 矢島八郎と高崎市是

八郎に大きな影響を与えた父

矢島家は代々、新町の伝馬問屋年寄で、八郎は一八五〇年に生まれ、七歳の頃より漢籍、書を学んでいた。伝馬とは、近世までの日本に見られた使者や物資を馬で運ぶ交通制度で、江戸幕府は諸街道を整備し各宿場に伝馬を整備させた。問屋場は江戸時代の街道の宿場で、幕府や大名の輸送用の人馬の継立、助郷賦課（農民に課せられた労役の賃金計算）などの業務を行うところで、その主宰者を問屋と称した。新町は本町、田町とともに伝馬宿を務め、その町の名主が伝馬役を務めた。



▲矢島八郎初代高崎市長

一八八九年、町村制の実施に当たり高崎の町会議員に当選、ついで初代高崎市長に、一八九二年に衆議院議員に当選、一八九四年に高崎米穀取引所頭取、翌年には上野鉄道会社取締役となった。そして一九〇〇年の市制施行に際して、八郎は初代高崎市長に就任した。

高崎市是は 今でも生きる高崎の 近代化の大戦略

一九〇〇年に市制が施行されて六年、矢島八郎初代高崎市長は六年の任期を終える一カ月前の六月、新築されたばかりの市議会議事堂で、改選されたばかりの市議会議員を前に、一時間四十五分にわたって「高崎市是」の大演説を行った。矢島市長は「市制施行後ここに六年、未だ事業の十分の一も達成されていない」と万感の思いを込めて高崎市の基本方針を示し、後人に事業を託した。

「市是」は、今で言えば総合計画のようなものだが、戦後の復興期まで高崎の都市づくりの指針となったことを考えると、高崎の近代化は、市是によって示されたレールの上を走ってきたと言っても過言ではない。

矢島市長は市是の演説の中で「建設的方針を積極的に進め、教育、衛生、勸業、交通、慈善に力を注いでいかなければならない」とした上で、必要な

幕末の一八六二年から一八六六年までの五年間、高崎城下で「新町御伝馬事件」という大きな一揆が起きた。その遠因は一七八三年の浅間山の大噴火で、被害は年ごとに深刻化し農作物は壊滅状態に陥り、伝馬宿への負担や負架金が多くなった。その上、高崎宿の大半を焼失した大火で新町は全滅状態となった。そこで新町では町役相談の上で、街の復興のために旅芝居、角力、見世物などの興行と旅籠に飯盛りを置くことなどを藩に願ったが拒絶され、町民は禁じられている「箱訴」に及んだ。「箱訴」とは、享保の改革から江戸幕府に置かれた目安箱への直訴のこと。

このような状況下、一八六四年に水戸天狗党を追討するため、幕府若年寄の田沼玄蕃らが高崎に宿泊、藩はその費用三百両を伝馬宿に負担させようとした。しかしこれに応じなかったため新町の重役ら五人を入牢させ、他の五人を「手錠腰縄つき」の刑とした。本町から救いの手が差し伸べられ入牢者

資金を内外から調達し、長期償還により、恩恵を受ける将来世代に対しても負担を求めべきだと説いた。

市是に上げられた事業は、第一期として①水道敷設、②教育設備の完成、③市役所庁舎・伝染病院改築、④道路改修、⑤商工業の発達、⑥財源の強化、⑦公園の完成。第二期は、①下水道の完成、②市の区域拡張、③市区改正、④商工学校設立、⑤道路・溝渠改修制度の制定となっている。

現在の政策分野で見れば、教育、産業、保健福祉・医療、都市整備、上下水道、財政などの分野に及び、初代市長としての熱い思いを伝えている。特に水道敷設は長年の懸案であり、日露戦争で中断していたので「市の盛衰興亡に関する刻下の最要急務」とし、市の全力を持って完成させべきだと力説している。

高崎の発展を支える都市基盤 商業都市から商工業都市へ

一八六八年（明治初年）からの懸案であった上水道は、高崎十五連隊から兵士の伝染病を防ぐためにも強く求められており、一九一〇年に県内初の偉業として完成した。この時に建設された剣崎浄水場は、上里見町春日堰から取水した烏川の水を緩速ろ過方式で浄化し、市内に自然流下で給水しており、現在も現役で稼働している。当時の市人口は三万六千人であったが人口

を放免し、事件は解決。この事件に連座した父親の八郎右衛門が事件未解決のなか死去すると、一四歳の八郎は嘆き悲しみ断食を行い、これを見た周囲の者は大いに感動したという。御伝馬事件のもたらした辛苦は、八郎の青春の思想形成に大きな影響を及ぼした。

高崎駅の開業に私財を投げ打つ 八島町は名字の「矢島」が由来

八郎は、八郎右衛門を襲名し問屋年寄見習となり、大小区制が施行されると、第五大区第六区戸長となって町政に携わるようになった。一八七三年に中牛馬会社を設立、高崎―東京間に郵便馬車を走らせるなど運輸業に励む一方、政治家としての素質を開花させていく。一八七八年には群馬・片岡両郡兼郡書記。一八八四年には県議会議員に当選、この年、駅伝取締法実施により本県取締となった。

この年に、東京・上野から高崎に鉄道が延びると、八郎は私財をなげうって増を見込んで五万人の給水規模とし、施設を増設すれば十万人まで給水できる設備を計画した。水道敷設は多額の市債発行を伴い、以後の市財政を圧迫したが、高崎の産業、市民生活の発展に大きく貢献した。

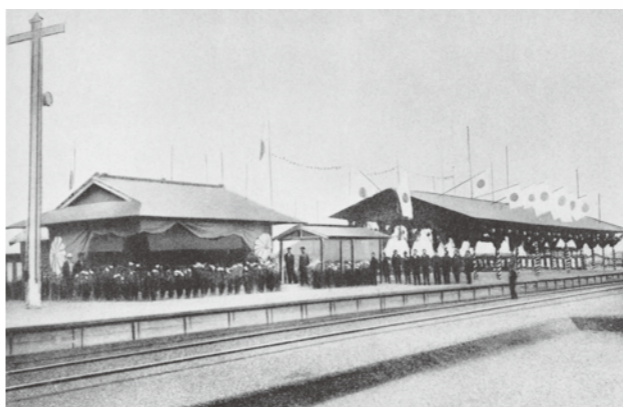
さらに南尋常小学校、高崎公園、県内初の甲種商業学校（現高崎商業高等学校）、高崎市役所と伝染病院の新築、橋梁の永久橋化なども含め、長い時間がかかったものもあるが、市是に掲げられた事業を高崎市は順次実現している。「高崎市是」がその後の高崎に与えた影響は、公共事業による都市基盤整備にとどまらない。

矢島市長の演説を議場で聞いていた議員の中に後に白衣大観音を建立した井上保三郎がいた。保三郎は、矢島市長の市是に強く心を打たれ、市是の具現化に力を注いだ。市是に掲げられた建設・土木事業に貢献したばかりではなく、市是の五番目に掲げた「商工業の発達」をも牽引した。

保三郎は志を同じくする多くの経済人とともに、高崎水力電気株式会社、高崎瓦斯株式会社、高崎板紙株式会社、上毛製粉株式会社など、高崎市の地場産業を興した。高崎が小麦の大産地であることから、麦わらを原料に使った板紙と製粉を産業化し、鉄道貨物の輸送力によって高崎の経済を発展させた。

保三郎らが興した産業が、その後の高崎の発展を導き、「商業都市」から

て広大な駅用地を寄付し鉄道開業に尽力した。そのため、新地名を「矢島町」とする案が浮上したが、八郎が固辞したため、「八島町」となった。一八八八年に碓氷峠に馬車鉄道を敷設するため、前橋の高瀬四郎らと奔走し、横川・軽井沢間の汽車連絡の便を図った。



▲1884(明治17)年6月25日の鉄道開通式(高崎市史 通史編4より)

「商工業都市」への転換を急速に成し遂げた。産業力の蓄積は、高崎市是の「財源の強化」にも貢献した。

「高崎市是」で矢島八郎が伝えようとした「高崎人としての気概、まちづくりの情熱」は、今の高崎にも息づいている。高崎の都市開発、商業集積、幅広いものづくり、そして高崎経済大学、群馬交響楽団、全国初の卸団地などを生み出したDNAには、「高崎市是」があるといえる。

矢島八郎は、一九二一年に死去、「葬会約三千名、高崎始まって以来の盛式」（砂賀町日記）と記録されている。生涯を高崎の発展のために私利を離れて公共のために寄与しようと努めた高潔な人であったことをよく示している。



▲剣崎浄水場竣工 1910(明治43)年

1930(昭和5)年に、その功績をたたえて観音山丘陵の雲山清水寺裏に建立された矢島八郎の銅像

世界が注目!

シンガポールの巨匠、エリック・クー監督が惚れこんだ「映画のまち高崎」の“風景と人情”

ベルリンで喝采を受けた“ロケのまち高崎”発

映画『ラーメン・テー』 世界25カ国で公開!!

世界三大映画祭の一つ「ベルリン国際映画祭」が2月に開催され、高崎で撮影された映画『ラーメン・テー』に大きな称賛がおくられた。メガホンを取ったのは、シンガポールを代表し、国際映画祭の常連監督として知られる鬼才、エリック・クー監督だ。映画出演した今をときめく斎藤工、永遠のスター松田聖子がベルリンで舞台挨拶し、大きな話題に。高崎市とシンガポールを舞台に描かれる家族の絆が世界を席卷する!

高崎作品がベルリンで世界初上映

第68回ベルリン国際映画祭(2月15〜25日まで開催)に、エリック・クー監督の最新作『ラーメン・テー』が招かれ、会期中2回にわたって上映された。高崎映画祭プロデューサーで高崎フィルム・コミッションの志尾睦子代表も参加。「ベルリン国際映画祭は、カンヌ国際映画祭、ヴェネツィア国際映画祭とともに三大映画祭と呼ばれ、招へい作品への注目度は高い」と語る。

『ラーメン・テー』は、高崎とシンガポールを舞台にした日本・シンガポール・フランスの合作映画。クー監督は、シンガポール映画界の巨匠、鬼才と呼ばれ、カンヌをはじめ国際映画祭に招へいされる常連監督として国際的評価は高い。その監督が日本全国の市町村の中からロケ地として高崎を選び、撮影を成功させた裏には高崎フィルム・コミッションの力がある。

ベルリンでの上映の際、舞台挨拶した監督が志尾代表をステージに招き紹介する一コマもあり「映画のまち高崎」がいよいよ世界に躍り出た。斎藤工と松田聖子の存在感も際立ち、「ラーメン・テー」のワールドプレミア・世界初上映は大成功を収めたといえよう。

高崎での制作発表

昨年3月に高崎市役所をクー監督と出演女優のジネット・アウらが訪れ、

「美味しい」その言葉が僕らを繋げてゆく

RAMEN TEH
ラーメンテー
ZHAO WEI FILMS

斎藤工 Mark Lee
Jeanette Aw 伊原剛志 別所哲也
松田聖子

製作: Zhao Wei Films Wild Orange Artists Comme des Cinemas Version Originale
監督: Eric Khoo プロデューサー: Tan Fong Cheng Yutaka Tachibana Huang Junxiang Masa Sawada Eric Le Bot
ジャンル: ヒューマンドラマ 言語: 日本語、英語、中国語 長さ: 約90分を予定 シンガポールでの配給: Clover Film 海外セールス: MK2 (フランス)

協力: シンガポール政府観光局 高崎市 TAKASAKI CITY 高崎フィルム・コミッション 高崎財団 高崎観光協会



ベルリン国際映画祭のレッドカーペット



多くの人で賑わう、ベルリン国際映画祭の上映会場



エリック・クー監督



東京国際映画祭

映画のタイトル『ラーメン・テー』は日本のラーメンと、シンガポールの「バクテー（肉骨茶）骨付き豚肉を煮込んだスープ」を組み合わせた造語で、映画の中の架空の料理だが、クー監督たちは3カ月をかけて実際にラーメン・テーをつくり上げたそう。こうしたこだわりも映画の隠し味となる。ラーメンの麺とバクテーのスープは相性が良く、ラーメン・テーはおいしいらしい。食は世界共通のテーマ。ベルリンっ子たちの目にアジアの味、ラーメン・テーはどのように映っ

膨らませた。「日本で映画を撮るのが私の夢だった」と語るクー監督。夢を実現する場所に高崎が選ばれたのである。

食べてみたくなる『ラーメン・テー』

「ラーメン・テー」の制作発表記者会見が行われ、高崎発の映画としてスタートした。世界的な映画監督の作品ということで注目を集め、当初からグローバルな規模で上映されることが見込まれていた。三大映画祭のいずれかが食指を動かすのではないかと話題性も高く、監督の動向に世界が注目していた。複数の国際映画祭から出品要請されたようだが、監督は友人好みのベルリン映画祭に応えたという。ベルリン映画祭には様々な部門があり、コンペティション部門の最高賞は「金熊賞」として知られている。食に焦点を当てた「キュリナリー・シネマ部門」への取り組みは先駆的で「ラーメン・テー」はこの部門の上映作品。上映後のパーティでは「ラーメン・テー」にインスピレーションを受けたという創作料理が一流シェフにより振る舞われ、参加者を大いに楽しませた。

クー監督の夢を高崎で実現

この映画のプロデューサー橋豊さん



『ラーメン・テー』上映後のパーティ会場

斎藤工演じる主人公のマサトは高崎でラーメン店を営んでいた。父親が亡くなり、マサトは遺品の中から古いノートを発見する。それは、10歳の時に亡くしたシンガポール人の母が記した日記であった。マサトは母の故郷シン

斎藤・松田の共演が東京国際映画祭でも話題に

斎藤工演じる主人公のマサトは高崎でラーメン店を営んでいた。父親が亡くなり、マサトは遺品の中から古いノートを発見する。それは、10歳の時に亡くしたシンガポール人の母が記した日記であった。マサトは母の故郷シン

クー監督が撮る高崎の風景

たのか。映画をきっかけに高崎とシンガポールが食文化で交流し、ラーメン・テーが実際に味わえるようになるばうれしい。

は、2016年の日本・シンガポール国交50周年を機に両国を題材にした映画制作を考え、クー監督に持ちかけたところ「たんぼぼ（1985年/伊丹十三監督）」のような、愛と情熱がふれるラーメン映画を作りたい」と企画がスタート。時期を同じくして、高崎市の産業を紹介する「ものづくり海外フェア」がシンガポールで開催されており、高崎市とシンガポールが文化交流にも取り組むという話が監督らの耳に入り、日本でのロケ地として高崎を選んだ。映画はオリジナルストーリーで、高崎のロケーションが監督のイメージを



白衣大観音でのドローンによる撮影風景

「高崎の仕事」が世界に広がる。東京国際映画祭の審査員も務めたことがあるエリック・クー監督。この

出を語り合った。

松田聖子の映画出演は、斎藤との初共演ということもあり話題になった。監督やシンガポール俳優らは、熱烈な聖子ファンだったという。俳優として才能を発揮する斎藤工。一挙手一投足が注目される歌謡界の女王・松田聖子。残念ながら松田の出演シーンはシンガポールだけで、斎藤・松田の共演は高崎では実現しなかったが、二人の共演はこの映画のみどころのひとつだ。昨年10月、『ラーメン・テー』の完成報告会が世界的にも注目される東京国際映画祭で行われた。日本発の映画のいち早い発表の場で、上映前の記者発表は異例という。それだけこの作品の注目度が高い証だ。

「高崎の仕事」が世界に広がる

ガポールへと旅立ち、松田聖子演じる日本人のフードプロガー・ミキがマサトを助け、母方の叔父や祖母を探し当てる…。



高崎市長とエリック・クー監督(右)と女優のジネット・アウ(中央) 高崎市役所にて

富岡賢治高崎市長 映画『ラーメン・テー』に期待

『ラーメン・テー』映画制作のきっかけは、シンガポールとの経済交流から始まりました。その流れから、エリック・クー監督を紹介していただくことになり、監督に「高崎で映画を撮ってもらえませんか」とお話ししたところ、「じゃあ、見てみよう」と高崎にお見えいただきました。とても気に入ってくださったので、「高崎市民あげて映画づくりに協力します」とお伝えしました。ロケ地の紹介やエキストラ集めとか、高崎フィルムコミッションやボランティアの方達がすばやくやってくれます。今、高崎では年に平均70本くらいの映画やテレビ制作をやってもらっています。本格的な「映画のまち」にしたいと思っているので、世界的な監督による作品ができますと、「映画づくりに協力する」という雰囲気は更に強まるのでありがたいことです。いよいよ『ラーメン・テー』が完成したというので、市民をあげて拝見したいと思っています。



「らーめん・すえひろ」が映画の舞台に。レンガ通りでの撮影風景

ショスタコーヴィチとチャイコフスキー ロシア音楽の真髄を堪能する一夜！ ミハイル・プレトニョフ指揮 ロシア・ナショナル管弦楽団 反田恭平ピアノ



炸裂するロシア魂はホール全体を震撼させるに違いない。世界屈指のオーケストラ、ロシア・ナショナル管弦楽団が楽団創設者で音楽監督の巨匠ミハイル・プレトニョフとともに来日する。プレトニョフは著名なピアニストであり、高崎でも'92年にリサイタルを開いているが、その当時に自らの理想を叶えるべくロシアの精鋭を集めたのがこの楽団だ。プログラムにも注目したい。ショスタコーヴィチは巨匠がひとときわ思いを寄せるソ連の大作作曲家であるが、今回の来日で彼の作品が取り上げられるのは本公演のみ。第10交響曲は圧巻のフィナーレなど管弦楽の醍醐味を存分に堪能させてくれる傑作。人気絶頂の反田恭平との共演にも期待したい。

2018年6月13日(水) 19:00開演 **3/16(金)発売**

会場/群馬音楽センター

- Ⓜ ミハイル・プレトニョフ(指揮)、反田恭平(ピアノ)
- ロシア・ナショナル管弦楽団
- Ⓜ チャイコフスキー/ピアノ協奏曲 第1番 変ロ長調 Op.23
- ショスタコーヴィチ/交響曲第10番 ホ短調 Op.93
- Ⓜ 全席指定 S席12,000円 A席10,000円 B席8,000円(U-25 3,000円)
- (友の会 S席11,000円 A席9,000円 B席7,500円)

デビュー25周年! 圧倒的な存在感を放つピアニスト 大西順子 Very Glamorous Live



力強いリズムと疾走感、オリジナル曲の洗練されたメロディ。長年にわたってジャズ・ファンを魅了し続ける大西順子が、最新アルバム2作品を携えてコアホールに登場する。ジャズの魅力に満ちた一夜を見逃すわけにはいかない。

2018年5月25日(金) 19:00開演 **3/7(水)発売**

会場/高崎シティギャラリー コアホール

- Ⓜ 大西順子(ピアノ)、井上陽介(ベース)、高橋信之介(ドラムス)
- Ⓜ 全席指定 5,000円(友の会4,700円 U-25 2,500円)

聴く人の心に寄り添うシンガー・ソング・ライター 畠山美由紀 / Miyuki Hatakeyama



透明感あふれる歌声が、本物を聴きたいという同世代の女性をはじめ幅広い層から支持を受けている。トリビュートアルバムや映画音楽などにも参加。ジャンルや世代、国境を越えて様々なアーティストと共演してきた畠山が真の音楽を届ける。

2018年7月20日(金) 19:00開演 **4/20(金)発売**

会場/高崎シティギャラリー コアホール

- Ⓜ 畠山美由紀(ボーカル)、小池龍平(ギター)、織原良次(ベース)
- Ⓜ 全席指定 4,000円(友の会3,700円 U-25 2,000円)

高崎シティギャラリー コアホール 324席 の贅沢。

前期(4~8月)5公演

この街の、このステージで、この演奏家に出会えるという思いがけない喜び。

音楽に寄り添う毎日を送る人々に、そんなサプライズに満ちた時間を提供しているコアホール公演、全324席。ステージ上の息遣いが客席のすみずみにまで伝わる親密な空間に、今シーズンも世界トップクラスのアーティストたちがめくるめく登場する。

引退を宣言した現代最高の実力派ピアニスト マリア・ジョアン・ピリス ピアノ・リサイタル



今年中の引退を表明しているピリスが最後の来日リサイタルを開く。彼女の主要レパートリーだったベートーヴェンの生涯をたどる選曲は、清澄な音楽で長く私たちに魅了してきたピアニストの心象を映し出すかのようだ。

2018年4月10日(火) 19:00開演 **完売御礼**

- Ⓜ マリア・ジョアン・ピリス(ピアノ)
- Ⓜ ベートーヴェン/ピアノ・ソナタ第8番 短調 Op.13「悲愴」
- ベートーヴェン/ピアノ・ソナタ第17番 二短調 Op.31-2「テンペスト」
- ベートーヴェン/ピアノ・ソナタ第32番 短調 Op.111
- Ⓜ 全席指定 10,000円(友の会9,000円 U-25 3,000円)

トロンボーン界のカリスマたちによる夢の共演が実現

Slide Monsters

feat.中川英二郎、ジョゼフ・アレッシ、マーシャル・ギルクス、プラント・アテマ [4Trombones]



「神が与えた、人間に驚異となる存在」が、Monsterの原義だ。中川、アレッシらトロンボーン界のカリスマたちによる響宴は、神の仕業が成す驚きの吹鳴となる。

2018年5月10日(木) 19:00開演 **3/9(金)発売**

- Ⓜ 中川英二郎(トロンボーン)、ジョゼフ・アレッシ(トロンボーン)
- マーシャル・ギルクス(トロンボーン)、プラント・アテマ(トロンボーン)
- Ⓜ パーンスタイン/「ウエスト・サイド・ストーリー」より
- ドビュッシー/映像 第1集より「水の反映」ほか
- Ⓜ 全席指定 5,000円(友の会4,700円 U-25 2,000円)

ウィーン・フィル、ベルリン・フィル首席奏者による兄弟デュオ ザ・クラリノッツ



世界最高峰のオーケストラの首席クラリネット奏者による垂涎のデュオ。ウィーン・フィルの名物奏者として活躍するも昨年急逝した父エルンストの想い出の詰まった作品を気心知れたアンサンブルで聴かせる。

2018年6月25日(月) 19:00開演 **3/9(金)発売**

- Ⓜ ダニエル・オッテンザマー(クラリネット)
- アンドレアス・オッテンザマー(クラリネット)
- クリストフ・トラクスラー(ピアノ)
- Ⓜ モーツァルト/『ケゲルシュタット・トリオ』(クラリノッツ版)
- パーンスタイン/クラリネット・ソナタ、ブルッフ/《8つの小品》作品83より
- Ⓜ 全席指定 6,000円(友の会5,500円 U-25 2,500円)

チケットインフォメーション

窓口 ●8:30-17:15

| 窓口 | 電話番号 | 定休日 |
|----------------|--------------|-------|
| 群馬音楽センター | 027-322-4527 | 月 |
| 高崎市文化会館 | 027-325-0681 | 月 |
| 高崎シティギャラリー | 027-328-5050 | なし |
| 箕郷文化会館 | 027-371-7211 | 月・火 |
| 新町文化ホール | 0274-42-9133 | 月・火 |
| 榛名文化会館 | 027-374-5001 | 月・火 |
| 吉井文化会館 | 027-387-3211 | 月・火 |
| 高崎市倉渕支所(地域振興課) | 027-378-4522 | 土・日・祝 |
| 高崎市群馬支所(地域振興課) | 027-373-2604 | 土・日・祝 |

※電話予約は発売日翌日より受付いたします。

インターネット

高崎財団インターネット チケットサービス(発売日は13:00から)
http://takasaki-foundation.or.jp/syusaijigyuu/

現代最高の古楽奏者による今回の来日唯一のチェンバロ公演

トン・コープマン チェンバロ・リサイタル



バッハの鍵盤作品などの膨大な録音や自ら組織した合奏団による精力的な演奏活動で知られるトン・コープマン。古楽の第一人者が今回の来日で一夜限りのチェンバロ・リサイタルを開く。

2018年7月10日(火) 19:00開演 **4/20(金)発売**

- Ⓜ トン・コープマン(チェンバロ)
- Ⓜ J.S.バッハ/協奏曲 二短調 BWV974
- J.S.バッハ/半音階的幻想曲とフーガ 二短調 BWV903
- Ⓜ 全席指定 5,000円(友の会4,700円 U-25 2,000円)

ユーフォニアムの概念を覆したスタープレイヤー

外園祥一郎 ユーフォニアム・リサイタル



吹奏楽の低音楽器のひとつに過ぎなかったユーフォニアムの概念を、類まれなテクニックと豊かな音楽性で覆した外園祥一郎。彼の無限な可能性に喚起されて書かれた楽曲は多く、開拓者ならではのプログラムが用意されている。

2018年8月27日(月) 19:00開演 **5/18(金)発売**

- Ⓜ 外園祥一郎(ユーフォニアム)、藤原亜美(ピアノ)
- Ⓜ 長生 淳/ユーフォニアム・ソナタ、フォーレ/夢のあとに
- 伊佐治 直/ガルシア・ロルカによるバラフレーズ
- Ⓜ 全席指定 2,500円(友の会2,200円 U-25 1,500円)

※未就学児の入場はご遠慮ください。※U-25料金は公演当日25歳以下が対象です。

平成30年度 「高崎市文化事業 友の会」 会員募集中!

会費

新規会員 2,000円

継続会員 1,500円

*前年度のポイントを引き継ぎます。

有効期限

入会日から

平成31年3月31日まで

★詳しくは、高崎財団HPをご覧ください

http://takasaki-foundation.or.jp/

★ツイッターでも情報発信中

@bds04884

主な会員特典内容

- チケットが特別料金で買える!
- チケットを優先して予約できる!
- お得な情報満載の会報「友の会便り」が届く!
- ためたポイントでチケットがもらえる!
- パスツアーに参加できる!

MEET THE GSO

GUNMA SYMPHONY ORCHESTRA

群馬交響楽団
楽団員インタビュー

Vol.4

脈々と引き継がれる70年の群響サウンド
それを奏でる個性あふれるメンバーたち
楽団員を知れば群響がもっと好きになる

群馬交響楽団 ヴィオラ首席奏者

渡邊 信一郎

わたなべ しんいちろう



長身のヴィオリスト

「音楽の楽しさを伝えていきたい」

🎵 ハンブルク留学で得たもの

2004年、憧れのブラームス生誕の地、ドイツ・ハンブルクへ一年間留学した。北ドイツ放送交響楽団、首席

身長191センチ、風格あるヴィオラ首席奏者の愛称は「しんちゃん」。明るく人柄で周囲に笑顔が絶えない。「群響は自由な雰囲気です。メンバーでやらせてもらっています。メンバーでよく飲みにも行きますよ」。入団一年、高崎での新生活を満喫する。とはいえ、リハや本番前の食事は「おにぎり一個」と決め、ストイックなまでに演奏に集中するかと思えば、休日は東京で子育てに専念する。そんなメリハリある暮らしも渡邊さん流だ。

🎵 華麗なる音楽家一族

名指揮者の渡邊暁雄氏を祖父に、ピアニストの康雄氏を父に持つ音楽家一家に育つ。幼少から祖父のコンサートに幾度となく出掛け、音楽の楽しさに浸った。自身はヴァイオリンとヴィオラを習い、いつしかヴィオラの「ふくよかな中音域の音色」に惹かれ、桐朋学園大学四年時、ヴィオラ専科に転向。同時に東京都交響楽団に入団した。「ヴィオラはいろいろな楽器と絡むことが多く、アイコンタクトをとりながら弾きます。どんな味つけにしようか、考えるのが楽しいですね」

ヴィオラ奏者深井碩章氏に師事。弾き方のアイディアを出し合うなど、スコア研究に没頭した。更に世界的ヴィオラ奏者タベア・ツィンマーマンの直接指導も叶い、二人の師との出会いは演奏への思いを純化させた。

音楽の楽しさをいかに伝えるか。海外オケの誘いを断り、日本の地で十三もの楽団に首席奏者として客演。辿りついた群響の地で理想の形を見つめる。「群響の音楽教室は子ども達が初めて生の演奏に触れる貴重な体験」とその意義を重視し、どんな舞台も「ベストの演奏」を目指す。だからこそ、時間を惜しまず練習に力を注ぐ。「演奏して拍手をもらえることは本当に幸せなこと。群響の伝統を引き継ぎ、演奏を通して群響を盛り上げていきたい」。自らを鼓舞し、熱い使命感で音楽の魅力を伝道していく。

Shinichiro Watanabe

- 出身 東京都 ■入団 2017年4月
- 最近の印象に残っているコンサート
第528回定期演奏会(2017年5月27日)
大友直人監督とは長くご縁がありますが、監督として共演するのは初めてで印象に残っています。
- 好きなアーティスト
タベア・ツィンマーマン(ヴィオラ奏者)
- 好きな作曲家
その時演奏する曲が一番。

次回はセカンドヴァイオリン首席奏者・秋葉美果さんが登場します。お楽しみに！